

## 2012「若者に関わる人達のための」全国フォーラム 若者を元気にする7つの事例と4つのスキル

平成24年1月7日（土）～8日（日）1泊2日

運営企画：全国ワークキャンプフォーラム実行委員会



### I 事業の背景（必要性）

現在、多様な問題や課題を抱える若者の意欲向上をはかる取り組みが求められています。そこで民間及び公的機関の若者の意欲を高める先導的な取り組みを関係機関に普及するとともに、本フォーラムにおいて青少年教育及び青少年の健全育成に取り組む幅広い分野の方々が相互に研究協議及び情報交換を実施することで、若者の意欲向上への取り組みを推進します。

### II 事業の概要

#### 1. 趣旨

社会の担い手である「若者」の育成や支援に携わる様々な分野の方々が一堂に会し、若者を「集める」「元気にする」をキーワードに知恵や経験、情報、発想を交換・交流することにより青少年問題や現代的課題の解決の方向性を探ります。また、青年の自立を促進する有効な手段としてワークキャンプの実践事例を紹介し、ワークキャンプの普及を図ります。

#### 2. 参加者

##### (1) 対象・募集人数

青年の育成や地域問題の解決に関係する自治体・教育委員会、農業組合法人、国際交流団体、大学、NPO/NGO法人、民間団体、個人などの若者に関わる機関、団体及び個人の方150名（宿泊100名、日帰り50名）

##### (2) 参加状況

①参加人数 128名（うち宿泊者が43名）

##### ②参加状況

ア. 都道府県別参加状況：23都道府県より参加

東京、神奈川、埼玉、千葉、静岡、栃木、福島、群馬、茨城、山梨、愛知、岐阜、石川、新潟、滋賀、富山、大阪、兵庫、三重、岡山、京都、愛媛、沖縄

イ. 参加団体数：全国70団体

青少年行政機関・NPO法人・青少年教育団体・民間シンクタンク・学生団体・大学・自立支援団体・社会福祉協議会・国際交流団体・民間団体・教員など

##### (3) 実施会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

会場URL <http://nyc.niye.go.jp/>

#### (4) 広報の方法

- ① 募集チラシを作成（業者印刷）（資料1）
- ② 都道府県教育委員会青少年教育担当、都道府県総務部青少年支援担当者、大学ボランティアセンター、青少年関係施設、若者サポートステーション、ジョブカフェ、企業、青少年育成NPO/NGOに10部ずつ配布。
- ③ SNSを活用（Twitter、mixi、Facebook）。

### 3. 日 程

7日 (土)	12:00		13:00	14:30	16:30	18:15	18:30
		受付	基調講演	第1分科会	第2分科会	加- ジツク	情報交換会
8日 (日)	9:30		11:30				
	特別ノウハウセミナー						

### 4. 内 容

#### (1) 基調講演

講師：ビックイシュー日本代表・CEO 佐野 章二 氏

講師：内閣官房東日本大震災復興対策本部事務局 震災ボランティア班企画官 田村 太郎 氏  
近年、ホームレスが若年化していることについての指摘があった。

若者が被災地で活躍したが、これは体験活動の場であったと思う。その中でも若者は、今まで全く繋がりの無かった地域との関わりができ、お互いを支え合っている場面を見ることができた。それらの経験から自分が地元に戻り、地元を支える若者に育っていくことを期待する。



【基調講演の様子①】



【基調講演の様子②】

#### (2) 第1分科会（講師名・分科会の中でのコメント）

①分科会A 講師：「育て上げ」ネット理事長 工藤 啓 氏

若者を支援するには、‘個’では全く成り立たない。組織的な支援の仕組みが必要である。

②分科会B 講師：山村塾 事務局長 小森 耕太 氏

農村には若者が育つ環境が整っている。実際に何十年も農村に携わってきている若

者がおり、お祭りや農業を支えている。単に農村やボランティアに行くだけでは学びにならず、コーディネートをする人がいることが重要である。

- ③分科会C 講師:ETIC. インキュベーション事業部マネージャー 佐々木 健介 氏  
ETIC. では若者の起業に向けた支援を行っており、ここ数年、若者の起業への関心は高まっている。大学を休学して被災地でボランティア活動に従事する若者や会社を辞めて被災地の団体で働く若者など、東日本大震災以降、その傾向は顕著である。若者の起業意識を生み出すためには、起業家や起業家を目指す若者、またそれらを支援する大人達などの相互的な関係性、つまり生態系を構築することが重要である。
- ④分科会D 講師:日本財団学生ボランティアセンター センター長 西尾 雄志 氏  
若者ならではの力を活かすことこそ被災地の復興の力になる。その力を引き出し、つなげるコーディネーションが重要である。「若者は何もできない」、「力がない」という意識の限界を越えていくことがコーディネーションには大切である。

### (3) 第2分科会

- ①分科会E 講師:劇団企画「くすのき」代表 大多和 勇 氏  
詩人の宮沢賢治の詩を例に、教えることを基本的に全て教え、励まし、祈る。そこまで行うことで、初めて指導者の責任を果たすことになる。
- ②分科会F 講師:水俣浮浪雲工房 代表取締役 金刺 潤平 氏  
伝統芸能や技術は、日本の若者は頭で考えてから動く傾向にある。紙すきは単純であるため、メモを取る間に終わる。アマゾンで日本の伝統芸能を指導したことがあるが、言葉文化が発展途上の場所においては、‘五感’で物を覚えようとする。覚える速度と器用さは、アマゾンに住む子どもの方がはるかに上である。あれこれ考えるよりも行動をすることが、今の日本の若者には必要である。
- ③分科会G 講師:美容室SORA 代表 北原 義紀 氏  
美容師は、女性の割合が高いため、女性が働きやすいように結婚・出産後も働ける環境を作るように心掛けている。同時に自分の仕事現場を見せて、新人が目標を作れるようにしている。また、スタッフ全員で感性を磨く場（展覧会や美術館に行き、そこで何を感じたかを共有する）を作っている。ボランティア活動にも積極的に参加し、美容師としてのやり甲斐を感じられる場を作っている。主体は誰にあるのか、誰が輝かなくてはならないのかということを常に考え、表現していく。



【分科会の様子①】



【分科会の様子②】

(4) クロージングの内容

他分科会の内容や様子をシェアするために、4～5人のグループを作り、話し合った。また心に残った言葉・強く印象に残っている一言を紙に書き、グループ内で発表し想いを共有した。

(5) 特別ノウハウセミナー（講師名・分科会のなかでのコメント）

①セミナー1 講師：BrainHumanity 理事長 能島 裕介 氏

ワークキャンプは若者の意欲を高めるとともに地域の課題を解決するという点で非常に有効な手段である。自己効力感や社会的有用感が芽生え、社会的な課題に対して取り組もうとする意欲が育まれる。一方、地域でも外部者の介入などにより、従来見過ごされていた地域の価値を再発見するとともに、若者の力により課題が解決されるなどの効果も見られる。ワークキャンプを実施するに際して、いくつかの手順を踏まえれば、どのような地域でも実施することが可能である。

②セミナー2 講師：青木将幸ファシリテーター事務所 青木 将幸 氏

全員で円になって参加動機をシェアした。そして講師に聞きたいことを質問して答えをいただく（講師だけでなく、答えたい人がだれでも答える）時間を設けた。また、自分の人生グラフを書き、その中で自分が努力した時期を絵で描き、3・4人のグループを作ってシェアするワークを実施した。これによって自分の関心や原点の振り返りや、自身のキーワードを発見し、それを人とシェアすることで新たな気づきがあった。

③セミナー3 講師：(株)電通ソーシャル・ソリューション局コピーライター 並河 進 氏

若者を引きつける広報を考えた場合、広告形式を重要視する。今まで通りの広報では若者は集まらない。また広報は企画をしていく上で、重要なものとして位置づけなければならない。つまり、広報部と事業部が分かれているのは望ましくない。

④セミナー4 国立青少年教育振興機構 指導主幹 北見 靖直

実際のレクなどで使えそうなゲームを実践形式で行った。ここでは単純にゲームだけを実施するのではなく、状況（時間、年齢、人数、目的など）に合わせて使い分けた。また、声のトーンや話し方なども工夫しながら行うことや笑顔を絶やさないといった配慮で、対象者同士においても打ち解けやすくなる。そのような雰囲気を作ることが重要である。



【ノウハウセミナーの様子①】



【ノウハウセミナーの様子②】

## 5. 評価と成果

### (1) 評価の方法

#### ① アンケートの実施

### (2) 結果

① アンケートの結果(有効回答：76名、4：とても良い、3：良い、2：悪い  
1：とても悪い)

項目	4	3	2	1
・ 事業内容	49 (64%)	26 (34%)	1 (2%)	0 (0%)
・ 実施場所	51 (67%)	21 (27%)	3 (4%)	1 (2%)
・ 実施時期	40 (52%)	32 (43%)	4 (5%)	0 (0%)
・ 日程	45 (60%)	31 (40%)	0 (0%)	0 (0%)
・ 職員の対応	56 (74%)	20 (26%)	0 (0%)	0 (0%)
・ 参加費	47 (62%)	27 (35%)	2 (3%)	0 (0%)

#### ② 参加者からの声

- ・ 様々な視点から話を聴くことができ、自分なりに吸収することができた。
- ・ 全国の様々な職種の方に逢え、繋がりができた事は自分の財産になった。
- ・ 関西でも開催して欲しい。
- ・ ワークショップやグループ形式などで討論できたら良かったと感じた。
- ・ 若者を元気にするヒントを多くいただく事ができた。実践に活かしたい。

### (3) 成果

- ① 広報の手段にソーシャルネットワーキングサービスを取り入れた事で、多くの方への情報提供が可能となり、今までの参加者とは異なった職業の方に参加していただいた。「若者を元気にする」という内容であったため、今回の参加者の中にはワークキャンプについて知識の無かった方もおり、その方々に「若者を育てるためにワークキャンプという手法は有効である」ということを認識していただけたフォーラムとなった。
- ② 基調講演と11の分科会・セミナーにより若者育成の先導的な取り組みとヒントを、多くの参加者に学んでもらう事ができた。

## III 事業の企画と運営

### 1. 企画・運営のポイント

- (1) ワークキャンプという手法による若者育成を行うNPO法人と連携・協力し、ノウハウを学ぶと共に、その人脈を活かし専門分野の方を紹介していただいたことで、幅広い職業の方を講師として招くことができた。
- (2) 広報は従来からの紙媒体に加え、ソーシャルネットワーキングサービスを活用し、より多くの方に広報することができた。これにより全国から多様な職業の方に参加していただいた。また基調講演では、ツイッターを利用し、講演内容をリアルタイムで全国に届けることができた。
- (3) 東京(渋谷区)の国立オリンピック記念青少年総合センターで行うことで、全国の方が比較的参加しやすいというメリットがある。

### 3. 参考資料

#### (1) 関連サイト

関連団体名	アドレス
・ NPO 法人 N I C E	<a href="http://www.nicel.gr.jp/">http://www.nicel.gr.jp/</a>
・ NPO 法人 g o o d !	<a href="http://www.good.or.jp/">http://www.good.or.jp/</a>
・ NPO 法人 A c t i o n	<a href="http://www.actionman.jp/">http://www.actionman.jp/</a>
・ NPO 法人 Brain Humanity	<a href="http://www.brainhumanity.or.jp/">http://www.brainhumanity.or.jp/</a>
・ 山村塾	<a href="http://www.h3.dion.ne.jp/~sannsonn/">http://www.h3.dion.ne.jp/~sannsonn/</a>
・ NPO 法人 Habitat for Humanity JAPAN	<a href="http://www.habitatjp.org/">http://www.habitatjp.org/</a>
・ (財) 日本学生ボランティアセンター	<a href="http://www.gakuvo.jp/">http://www.gakuvo.jp/</a>
・ NPO 法人 JUON(樹恩)NETWORK	<a href="http://juon.univcoop.or.jp/">http://juon.univcoop.or.jp/</a>
・ ピースチャイルド東京	<a href="http://www.peace-child.com/">http://www.peace-child.com/</a>
・ (財) 東京 Y M C A	<a href="http://tokyo.ymca.or.jp/">http://tokyo.ymca.or.jp/</a>
・ 全国ワークキャンプフォーラム実行委員会	<a href="http://wcf.seesaa.net/">http://wcf.seesaa.net/</a>

※ワークキャンプフォーラム実行委員の所属HPです。

#### (2) 資料

##### ① 募集チラシ (資料 1)

担当：北見靖直・内海隆博